令和８年度小平市立小平第一小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

１　調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

２　調査内容

（１）教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

（２）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

３　各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

平均正答率は 70.0%で、東京都 65.0%、全国 60.9%を上回っている。特に「言葉の特徴や使い方」「話すこと・聞くこと」は良好である。一方、「書くこと」は 52.2%と他領域より低く、記述式問題にも課題が見られる。

課題

文章から必要な情報を取り出すだけでなく、複数の情報を関連付け、根拠を明確にして自分の考えを表現する力を高める必要がある。特に、目的や条件に応じて引用したり、考えが伝わるように記述したりする力の育成が課題である。

学校で取り組む具体的な改善策

各教科・領域において、文章や資料から根拠を見付け、それを基に自分の考えを形成し、伝え合う学習を充実させる。国語科では、叙述を根拠に考えを説明したり、複数の情報を関連付けて書いたりする活動を設定する。また、「発見・探究・交流」を生かした対話や短い文章を書く機会を通して、根拠と考えを結び付けて表現する力を育成する。　根拠を見付ける → 関係付ける → 自分の考えを表現する

【算数】

状況の分析

平均正答率は 64.0%で、東京都 63.0%、全国 56.4%を上回っている。「数と計算」は 67.9%、「測定」は 85.1%と良好である。一方、「変化と関係」は 50.2%、「データの活用」は 56.7%で、数量の関係を捉える問題に課題が見られる。

課題

基礎的な計算技能に加え、問題場面から数量の関係を捉え、図・式・言葉を関連付けて考える力の育成が必要である。特に、割合や基準量・比較量の関係を理解し、根拠を明確にして判断・説明する力を高めることが課題である。

学校で取り組む具体的な改善策

計算の仕方を身に付けるだけでなく、「なぜその式になるのか」「どの数量に着目したのか」を説明する学習を充実させる。特に「変化と関係」「データの活用」では、具体物、数直線、図、表、式、言葉を往還させ、数量の関係を可視化する。また、一つの解き方で終わらせず、複数の考えを比較し、共通点や相違点を話し合う場を設定する。日常生活と結び付いた問題や、既習事項を活用して解決する問題を継続的に取り入れ、根拠をもって判断し説明する力を育成する。

【質問紙】　　状況の分析

自己肯定感や教師から認められているという意識が高く、自分で考えて学習に取り組む姿勢や、異なる意見を受け止める意識も良好である。

一方、算数を「得意」「好き」と感じる児童の割合や、困ったときに教師等へ相談できるという意識には課題が見られる。

課題

主体的に学ぶ姿勢をさらに伸ばすとともに、学習への自信や「分かった・できた」という実感を一人一人に保障する必要がある。

また、児童が困りごとや不安を安心して表出でき、教師や友達とつながりながら学び、生活できる環境づくりが課題である。

学校で取り組む具体的な改善策

児童が「分かった・できた・もっと考えたい」と実感できる授業づくりを進める。課題を自分事として捉え、自ら学び方を選択・調整する場を設定するとともに、友達との対話を通して考えを広げたり深めたりする学習を充実させる。

また、一人一人のよさや成長を具体的に認め、振り返りを通して児童自身が成長を実感できるようにする。特に算数では、具体物や図、ICT 等を活用し、考えを比較・説明する活動を充実させる。併せて、日常的な声掛けや個別面談等を通して、困りごとを安心して相談できる関係づくりを進める。

承認される安心感　→　自分から挑戦する　→　対話する　→　できた・分かったを実感する